

SEISHIN APPLICATION *CLICK*

—— 適応と前進 ——

Index	P2～P3	【ご挨拶】全日本印刷工業組合連合会 第十七代会長 臼田真人／第十八代会長 滝澤光正
	P4～P7	【特集】「海の豊かさを守ろう-SDGs14-」 (株)フラジュテリー 代表取締役 橘田佳音利
	P8～P9	【コラム1】「未来に向かって舵を取る-SDGsと航海について思うこと-」 ファイルティーチャー 代表 世古真一
	P10～P11	【コラム2】「時代が変わる、社会が変わる・・・備えなければ」 (株)V-NET 代表 池松正克
		【経済】5月月例報告

新型コロナウイルスの感染拡大が全業種を襲い今や町は壊滅状態であると「日経消費 DI」で報じられております。5月中旬、予め予約した書が入荷したと書店より電話が入り、新橋まで行き、銀座8丁目から銀座通りを歩くこととしました。銀座4丁目に向かつての道路に入っ子一人目に入らぬと申してよい程の閑散な銀座通りでした。一瞬私のいる場所を疑い、その上、更に自分の体調をも疑う程でした。しばし呆然として我に返り、左側の歩道を歩き進めました。私の常に記憶にあるのはこの歩道は人と人がぶつかり合う歩道であります。その歩道の情景はどこへやら、行き交う人、四丁目交差点まで数人でした、その人達もいつものような様相ではなく、私同様に困惑の様相でした。更に常に体感的に承知しておりました歩道の幅中がいつもより広く感じました。両サイドの店舗はいずれも正午間近というのに閉じられており、この光景も滅多に目に出来ぬと驚きつつ、店舗に着き目的を果たすことが出来ました。滅多に見られぬ経験をしたものだと思いに刻んだ午後の一時でした。

さて、私達ビジネスマンとして脳裏に浮かぶのはこの後の回復が案じられる此頃です。V字型かL字型か新聞紙面で問われております。私達の記憶にも未だあります2008年のリーマン危機も同様にありました。結果的に価値基準をリニューアルするという概念が定着しました。先々いずれ終息するでありましょう。債務超過の経済環境に悩まざるを得ないと思うのは私だけでしょうか。早い終息を願う日々です。(編集室)

誠伸商事株式会社

TOKYO	03-5751-3011
SIZUOKA	054-340-1191
TOUHOKU	022-299-6661
KITAKANTOU	028-684-1981
NIIGATA	025-286-9040

お二方のご挨拶

全日本印刷工業組合連合会第十七代会長 臼田真人氏と第十八代会長 滝澤光正氏よりご挨拶を頂きました。

〔編集室より-その1-〕

臼田真人様は大変に人との出会いを大切にされる御方です。御尊父様が印刷業を創業されて間もなく御一緒にその印刷業に加担されました。その時の御当人の年齢は22歳との事でした。日夜業務に健闘され、時も過ぎ、28歳の時に全国青年印刷人協議会（全青協の仲間）との皆様と出会うこととなりました。同時に仕事も順風に捗るようになって参りました。過ぎて臼田真人様36歳の時、御尊父様が心筋梗塞で急逝されてしまいました。誠に浮雲極まりないこととなりました。会社の事業規模こそ小さいが一緒になって日夜共に貢献して頂いた社員もいてくれる、この社員達と共にお客様にとって経済的に必要な企業となること、そして存在価値をもった企業を作り上げていくとの決意で続けてきたとの事です。

このお話は青年会で出会った仲間に常におっしゃってありました。斯く、臼田真人様は経営者の基本を充分にわきまえて、激変動の我国経済の中で印刷産業界の発展に寝食を忘れて印刷業界の先達として貢献されました。永劫に忘れることが出来得ない会長であります。

四年間を振り返って

全日本印刷工業組合連合会
第十七代会長 臼田真人

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、政府より緊急事態宣言が発令され、ここ東京は特別警戒地域として外出自粛が求められている。銀座四丁目交差点、渋谷スクランブル交差点からは人影がなくなり、誰もが生まれて初めて見るその街の姿はなんと空恐ろしい風景だ。こうした非日常の時間が流れる中で、全日本印刷工業組合連合会の令和2年度通常総会が五月二十二日に開催され、同時に私の四年間の会長の任期も満了となる。本誌発行元の誠伸商事福田会長より直接ご連絡をいただきご依頼をいただいたので、この機に4年間を振り返り印刷業界に対する思いを記したい。

よく印刷業界の皆さまから「臼田君、どうして君はそこまで業界の仕事に注力出来るのか？」と、質問を受けるのだが、それは私と一冊の本との出会いからだ。その本のタイトルは「印刷産業の発展を求めて」著者は近代印刷産業の立役者である塚田益男氏である。そこには中小印刷団体組織の基礎に触れこの様に記されている。「戦後の焼け野原の中から一つの産業が育っていったのだが、勿論、印刷事業所の経営者やおじさんたちの努力は筆舌につくせないものだった。しかし個人がバラバラに金儲けに努力するだけでは、その個人も経済人として評価されないし、産業組織もできるものではない。産業組織ができ、統計数字も整備され、国の労基法や税法などの諸法令も伝達されるようにならなければ、印刷事業所が会社にはなれない。その中で、印刷会社が社会的存在として認知され、レーゾンデートルも明確になっ

てくる。もし団体組織がなかったら、その会社は経済界の中で野ざらしになった雑草のようなものになってしまう。」正にこの一節に私はすっかり心奪われてしまうのである。この後にも同氏の諸本を何冊も、そして何度も読み返し、その先見性と具体的な手法が論じられていることに心底頷いてしまう自分がいた。先ずもって事業団体の存在意義に関しては明確な答えをいただいた。その上で、更に同志は、中小・小規模の印刷会社に当時から散見される課題解決を更にこの様に発信されている「収獲通減」から「収獲通増」へ。今から二十年近く前のバブル経済破綻前、わが国に於ける印刷総出荷額はピークを迎えているにも関わらず、各社は旧態依然とした生産設備投資による他社との差別化が当たり前であったときに、明確に問題提起をおこされているのである。私の話に戻らせてもらえば、こうした先達の教えをこの時代に合わせ制度設計を行った事業と、欧米諸国の先進的な活動をされていた印刷業界団体へ積極的に訪問し各国の取り組みを学び、それらを日本の印刷産業や組織が抱える課題解決に役立てたのである。諸外国からの学びは、業界団体のメンバー（組合員）へのサービス提供についてであった。米国では、いくつかの事業の中でとりわけ注力している活動が、ロビー（政治）活動であった。構成メンバーの数を力に変えて、中小・小規模事業者の経営基盤の安定化を具体的な政策提言を行い整備しているのである。フランスでは、業界団体が行政と協業し、M&A事業を展開し印刷業界の新陳代謝を促すサービスを提供していた。当時、日本の印刷業界団体では、政治活

動も精力的には行われておらず、組合員の数をもって力に変え政治や国を動かすなど皆無に等しかった。また、M&A などはその言葉だけで身震いされ敬遠される状況であったが、これらも約十年以上の歳月をかけて事業化へ結びついた。先般の定時総会に於いて私が関わった事業についてご紹介をいただいたが、アドビ特別ライセンスプログラム、MUD、CSR、M&A、ソリューションプロバーダーへの真価、印刷産業リデザイン、印刷道、ハッピーインダストリー、幸せな働き方改革、そして印刷産業デジタルトランスフォーメーションと、なんとまあ横文字の多いこと。任期中に「臼田君のはなしは英語が多く

て良くわからない」と良くいわれたのも振り返ると分からないでもない。しかしながら、先達の教えと組織の歴史と伝統に導かれ、こうした事業に関われたことは大変光栄であることと同時に、実際にこれらの事業を具体的に運営し私を支えてくれた同志に対し衷心より感謝を申し上げたい。全印工連では、私に代わり滝澤新会長のもと、役員をはじめ、全国四十七都道府県理事長の高い志と強い行動をもって、わが国の印刷産業が益々発展し日本全国の地域経済活性のエンジンとなること、そして、印刷産業に関わる全ての人々が一層の幸せを実感できることを心から期待する。

【編集室より-その2-】

滝澤光正様は全日本印刷工業組合連合会の令和2年度総会で全日本印刷工業組合連合会会長の重責に選出されました。本当にお芽出とうございました。滝澤光正会長には前会長臼田真人様の良き協力者として刎頸の御交誼がありました。更に会長の最終学舎では国民の、そして精神の、更に学問の独立は自由精神の育成にありとの教訓の下研鑽されました。世界的激震のコロナ終息後の業界変化に遅く先達となることでしょうか。心からお喜びお祈り申し上げます。

ご 挨 拶

全日本印刷工業組合連合会
第十八代会長 滝澤光正

平素は当連合会事業に対しご理解ご協力をいただき、衷心より御礼申し上げます。私、このたび全印工連令和2年度通常総会において会長に選任されました。その重責に身が引き締まる思いです。歴代諸先輩方に比べもとより浅学非才の未熟者ではありますが、選任された以上は皆さまのご期待に副えるよう誠心誠意尽力して参る所存です。ご協力賜りますよう切にお願いする次第です。

さて、緊急事態宣言は解除されたものの今般の新型コロナウイルスによる経済への影響は甚大で、私たち印刷産業も急激な消費の減退による需要減、売上の減少に見舞われていることは、全印工連が行った実態調査からも明らかになっています。

こうした厳しい状況下に組合に課せられた役割を考えると、その存在意義として「連帯、共済、体外窓口」という機能に尽きるであろうと考えます。一社では解決し得ない共通の経営課題に対し同じ立場の中小印刷会社が力を合わせるにより解決を図っていく、そのことが組合の使命です。目下の状況において、まずは経営に有用な情報の収集といち早い組合員各社への発信に努めてまいります。加えて、各社の声をまとめて行政や議会に要望することにより、経営改善に資する施策実現に努力してまいります。

また「新しい生活様式」など、今後迎える社会は

私たちが初めて経験する社会経済環境です。これまで印刷会社にはお客様の課題を解決するソリューション・プロバイダーとしての役割が求められており、旧来の請負型製造業から脱却した新しい成長産業への模索が今も続いています。コロナ後の社会を考えるとその必要性はさらに増していくものと思われます。

これまで全印工連ではブランドスローガン「Happy Industry- 人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業」を掲げ事業推進してまいりました。今年度も引き続き印刷に関わるすべての人々を幸せにする産業の確立を目指し事業運営に努めてまいります。さらにこの後迎える新しい社会においても引き続き印刷産業が社会のお役に立てるために、今年度より印刷産業の構造改善を目指す一環として生産性向上のためのデジタルトランスフォーメーション導入の推進を図ります。

ほかにも全印工連では印刷会社の企業価値向上に向けたさまざまな事業を行っております。組合員各社にはそれらを最大限事業経営に活かしていただくべく、組合事業に積極的に参画いただき、同じ中小印刷業経営者の仲間同士「志」を共にし印刷産業を「Happy Industry」として未来永劫繋いでいきたいと願っております。今後目指していく経済再生の局面においても社会にしっかりと価値を提供できる印刷産業構築のため、全国の印刷会社とともに精一杯努めてまいります。皆さまのご理解ご協力を切にお願い申し上げます。

海の豊かさを守ろう — SDGs14 —

株式会社フラジュテリー
代表取締役 橘田佳音利

【編集室より】

最近のビジネス書で必ず目に入るのが **SDGs** があります。既に各地域社会、各企業、各学校そして非営利団体で取り組まれております。SDGs は 2015 年 9 月から既に社会に出発して今年 5 月で 4 年 5 ヶ月が過ぎました。各地域社会、各企業での皆様にはその認知度は上がったものの、これを実務に取り込み、しかもそれを自家菜籠中（※）にされておる企業は以外と少なく、私たち編集スタッフも遅き乍ら実は勉強中であります。

SDGs とは “**Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標**” のことで、私達は世界を変革する持続可能な開発の為に 2030 アジェンダ（※）という 2015 年決定の国連文書に盛り込まれた理念であると承知しましょう。社会情報大学大学院客員教授である笹谷秀光先生が申すには“我国には和の精神があるので SDGs を加速させる可能性は非常に高い”と申しております。更にこれらを発揮するには近江商人の経営理念にある三方よし（自分よし、相手よし、世間よし）を分かりやすく申しております。今日ではそれらを SDGs だと考えれば良いと思います。しかも更に前述の笹谷先生が申しておりますには“**陰徳善事（※）**”という表現がある如く日本企業は「人知れず社会に貢献しても、分かる人には分かる」と考えあえて自らは発信しないことが多かった。しかし今日の一般的風潮ではそれでは通用しないでしょう。詳しく発信することによって同じ志を持った仲間が増えてそこからイノベーション（※）が起これば考えることが普遍的発想となりました。

今回の特集では SDGs に関する世界的課題となっている”マイクロプラスチック海洋問題”にヨットレースの活動を通じて势力的に取り組まれている（株）フラジュテリー 橘田代表取締役が執筆頂きました。

※自家菜籠中；菜籠の中の物は菜箱の中の菜。自分の家の菜箱の中にある菜のようにすぐに役に立つものということで手の内にあるものの意。

※agenda; 会議事項、討事、日程

※陰徳善事；人に知られないようにしてする良い行い

※innovation; 新考案

【日本～パラオ親善ヨットレース】

昨年、暮れも押し迫った 12 月 29 日、日本～パラオ親善ヨットレースの伴走艇である帆船「みらいへ」にレース実行委員の一人として乗り込みました。

横浜からパラオまで、約 3197 キロの航海でした。

日本パラオ親善ヨットレース（※1）はパラオ共和国の独立 25 周年・日本パラオ外交関係樹立 25 周年にあたるこの年に開催されました。また日本で最初に世界に向け扉を開けた横浜港の開港 160 周年にもあたります。

この記念すべき時にパラオ共和国と日本との親善と友好の絆をより確固たるものにすべく、このレースは私達日本パラオ親善ヨットレース実行委員会により開催されたのです。しかし親善ばかりではなく、SDG s 14 海洋保全への取り組みも行いました。

このレースの柱は 3 本、

1. マイクロプラスチック採取活動
 2. 日本とパラオの親善を図るためパラオへの OP（オペティミストディンギー）（※2）寄贈と継続的な指導提供
 3. ヨットレース
- です。

その 3 本の柱の内容は、

まず 3. のヨットレース。

このレースは開港 160 周年の横浜からパラオ コロール島沖まで 3197km をヨットで競うクルーザーのレースです。

2. はパラオとの親善です。

皆様もご存知かと思いますが、2019 年 11 月、在京パラオ大使館主催の“日本パラオ外交関係樹立 25 周年記念式典”が盛大に行われました。外務省によりますと、安倍内閣総理大臣も出席し、歴史的な絆で結ばれたパラオとの関係 25 周年を喜びスピーチなさり、そしてパラオのレメンゲサウ大統領が、日本～パラオ間の友好協力関係を深めてこられたことに敬意を表する旨のスピーチをなさったそうです。

パラオは親日国ですし、そのパラオとの関係を日本も大切にしているのです。

我々ヨットレース実行委員会も、パラオとの親善を図るため、2019年春、20艇のOPを寄贈致しました。海に囲まれた国であるパラオはダイビングのメッカではありますが、セーリングを楽しむ人はいないのだそうです。そこで、寄贈したOPの乗り方を指導するべく、セーリングコーチの派遣もOP寄贈とともに行いました。子供たちはヨットの体験から始まり、楽しみながらヨットレースに参加できるまでに育ってくれました。半年以上の練習を行い、日本で行われるジュニアのOP親善レースに参加するべく選抜レースを行いました。そして選ばれた6名のパラオの子供たちが日本へパラオヨットレースのスタート前に来日し、12月28日、「日本パラオジュニアOP親善ヨットレース」が行われ、日本とパラオの親善がはかられました。

来日した6名の子供たちの帰国の途は、保護者5名と合わせて11名、日本パラオ親善ヨットレースの伴走艇である帆船「みらいへ」に乗り込みました。わたくしとともに、17泊18日の太平洋～フィリピン海の航海をし、パラオに帰港したのです。



←写真1
(帆船「みらいへ」
全長約52メートル、
マストの高さ30
メートル、総トン数
230トンの3本マ
ストの帆船)

最後に一番重要なのが、1.のマイクロプラスチック採取活動です。

その伴走艇である「みらいへ」において、プランクトン採取や海洋プラスチック調査が実施されました。その調査を行うため、伴走艇の帆船「みらいへ」には、海洋研究開発機構（JAMSTEC）（*3）の研究員及びイギリス世界自然保全モニタリングセンター（UNEP-WCMC）（*4）の研究員が乗り込み、活動を行ったのです。

更に、その二人の研究員により、1日一度、子供たちのためだけに授業が行われたのです。たった6人の子供たちのために、こんな素晴らしい専門家が、この船に乗り組み18日間も担当するなどなんと素晴らしいことなのでしょう！この取り組みは、今航海で大変重要で意義のあることだったと思います。

海洋プラスチック調査は、機関室に設置された採取装

置においての採取、そして帆船のデッキから降ろすニューストンネットによるマイクロプラスチック採取です。2種の採取方法によってなされました。

【SDGs14】

SDGs14では、海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用するために、海洋ごみや富栄養化を含む、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減していかなければならないとあります。

海洋ごみとは一体何か？

「海洋ごみ」と聞くと、砂浜に散らかっているペットボトル、発泡スチロール、ビニール袋などのプラスチックごみ、流木や漁具（漁網や浮きなど）をイメージする方が多いと思います。しかし、このような砂浜のごみは「海洋ごみ」のごくごく一部であり、「海洋ごみ」の多くは海流や風の影響を受けながら海洋中を漂流し、粉々になりマイクロプラスチックと化し世界の海を汚染してしまうのです。当然、海底に沈んだりもするのです。

海流に乗ってどのように7つの海を漂い汚染されているのか。その調査が必要なのです。

海流により潮目で吹き溜まりが出来てしまいます。

JAMSTEC 研究員によるその海流が下図（写真2）です。



←写真2

現在本船などの定期航路の協力を得て調査を行ないその役目を担っていただいているそうですが、定期航路は決まったコースしか走ることが出来ません。しかし我々のようなヨットレースにおける調査は、決められたコースを走らないという利点があるのだそうです。定められていない色々な場所を走ることによって、通常では調査できない場所での調査ができるということなのだそうです。

マイクロプラスチックとは何か？

マイクロプラスチックは微小なプラスチックのことを指します。その大きさは、通常5mm以下のプラスチック粒子です。ですので、ペットボトルやレジ袋などは

マイクロプラスチックには含まれません。

単位におけるマイクロ（ μ ）は100万分の1のことですので、1マイクロメートルは、髪の毛の太さのさらに千分の1程度になります。実際にマイクロプラスチックは、マイクロよりさらに小さい、nm（ナノメートル）単位（10億分の1m）のサイズも存在しています。これらは当然、目視できず、電子顕微鏡などでしか確認できないサイズです。

ですので、採取されたものは、JAMSTECの研究員が日本に持ち帰り。顕微鏡で調べ結果をまとめ報告が行われました。（*5）

2つの方法で行われた採取

マイクロプラスチックの採取は二つの方法で行われました。

1. マイクロプラスチック採取装置が帆船「みらいへ」のエンジンルームに設置され、海水からマイクロプラスチックの採取を行いました。

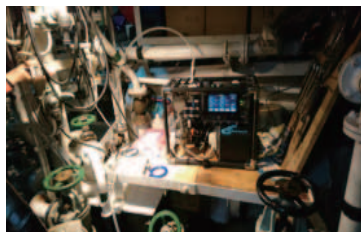
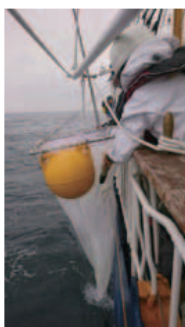


写真3→
(エンジンルームに
設置された採取装置)

またレース艇7艇のうちの1艇にもこの装置が設置され、レース艇によっても1日に1度の採取が行われました。

2. 海面に浮遊するマイクロプラスチックは、プランクトン採取用の「ニューストンネット」を用いて、採取しました。船舶でネットを引っ張り、海の表層に浮かぶ0.3mm以上のプラスチックを集めました。ニューストン（new stone）とは、表面に浮いている生き物のことを指すそうです。そのように名付けられたネットをデッキからアームを使用し海面に浮かばせ、毎日30分間引っ張り採取活動を行いました。



←写真4
(帆船よりアームを使用し
ニューストンネット降下の作業中)



写真5→
(ニューストンネットを
海面に浮かせて採取)



←写真6
(乗船の大人たちも含め
引き上げたニュースト
ンネットを観察)

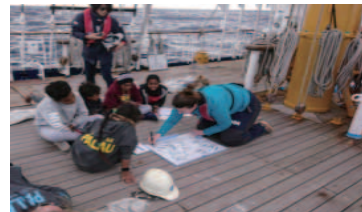


写真7→
(パラオの子供たちが
海洋汚染に関する授
業に真剣に取り組む)

我々は海に密接にかかわる活動をしており、その海を汚染から守るために必要なことを、出来ることから一つずつしていこう、という思いでこのことを行ってきました。ですが、海に密接にかかわらずとも、すべての人類は、この「海」からとれる資源によって生かされています。その海を、海の生物を、守ることは重要なことです。

直接事業が海にかかわらずとも、このような取り組みを検討している企業様もいらっしゃると思います。多くの企業がCSR活動としてスポーツを応援するのもその一つかと思います。

SDGs 14のターゲット

SDGs14のターゲットとは、「海の豊ゆたかさを守る」です。

この目標は、海洋・沿岸生態系の保全と持続可能な利用を推進し、海洋汚染を予防するとともに、海洋資源の持続可能な利用によって小島嶼開発途上国（太平洋・西インド諸島・インド洋などにある、領土が狭く、低地の島国）とLDCs（後発開発途上国）の経済的利益を増大させようとするものです。

1、2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。

2、2020年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性（レジリエンス）の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全

で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。

3、あらゆるレベルでの科学的協力の促進などを通じて、海洋酸性化の影響を最小限化し、対処する。

4、水産資源を、実現可能な最短期間で少なくとも各資源の生物学的特性によって定められる最大持続生産量のレベルまで回復させるため、2020年までに、漁獲を効果的に規制し、過剰漁業や違法・無報告・無規制（IUU）漁業及び破壊的な漁業慣行を終了し、科学的な管理計画を実施する。

5、2020年までに、国内法及び国際法に則り、最大限入手可能な科学情報に基づいて、少なくとも沿岸域及び海域の10パーセントを保全する。

6、開発途上国及び後開発途上国に対する適切かつ効果的な、特別かつ異なる待遇が、世界貿易機関（WTO）漁業補助金交渉の不可分の要素であるべきことを認識した上で、2020年までに、過剰漁獲能力や過剰漁獲につながる漁業補助金を禁止し、違法・無報告・無規制（IUU）漁業につながる補助金を撤廃し、同様の新たな補助金の導入を抑制する。

7、2030年までに、漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる。

一般企業がかかわれること

JAMSTEC や UNEP-WCMC はまさに世界を調査し研究を重ねている機関ですが、我々企業にとっても海洋汚染をなくす取り組みをしていかなければならないことですし、出来ることです。

個人としても釣りをするのなら、釣り用品などを海に廃棄しない、また間違っって落とさないようにする配慮もできます。海に遊びに行ったときは必ずごみを持ち帰る、など。因みに現在はヨットレースにおいて、どのレースも、海にごみを投げるなどの行為は、ヨットレースの失格要件となっています。レースに勝つには、マナーを守ること条件なのです。

シービンという海洋プラスチックゴミ回収装置があります。

2020年に行われるはずだったオリンピック、セーリング会場の江ノ島ヨットハーバーではすでに導入されています。

またこの夏には、東京都の夢の島マリーナでも導入

される予定だそうです。

両者とも、港・ハーバーの管理者として必要なものとして積極的に取り入れたものであると思います。

シービンは海に浮かんでいるゴミを回収する装置です。

回収したゴミの量（自然物・プラスチックゴミ・その他区分）を、シービンを発売する業者が、とりまとめ設置企業に報告するというものもしているそうです。

海洋プラスチックゴミを減らすための活動に取り組みたいが、自社には海・湖・ハーバーがないという企業様、SDGs・CSR・ISO140001に取り組みたい、という企業様に向けて、設置場所などのマッチングもしてくれるそうです。

日本の企業の取り組み事例はこちらをご参考いただければと存じます。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/case/goal14.html>

印刷業界でも ISO14001 取得は積極的になさっていると伺いました。SDGs 14 に関してもご一考いただくことも良いのではないかと思います、この SDGs 14 に関してご紹介させていただきました。

*1 パラオレース；<https://japan-palau-yachtrace.com/>

*2 OP；15歳までの子供達にだけ許された国際セーリング連盟が承認する最も小さなヨット。

*3 JAMSTEC；<http://www.jamstec.go.jp/ocean-plastic/j/>

*4 イギリス世界自然保全モニタリングセンター；生物多様性の保全に取り組む、国際連合環境計画（UNEP）の下部組織。
<https://www.unep-wcmc.org/>

*5 結果報告；<http://www.jamstec.go.jp/spfo/j/#report>

■プロフィール

橘田 佳音利（きつだ かおり）
株式会社フラジュテリー代表取締役

自らの経験をもとに、ポジティブアクション・ダイバーシティに着目し、女性の支援こそ使命であると強く認識し、女性に特化した活躍支援のパイオニア企業として、株式会社フラジュテリーを立ち上げる。

45年以上続ける趣味のヨットにおいても貢献すべく、現在、公益財団法人日本セーリング連盟理事を務める。

■主な著書

「煌めくミドルと諦めミドル」（長崎出版）

■会社概要

称号：株式会社Frajouterie（フラジュテリー）

設立：2003年3月

代表者：代表取締役 橘田 佳音利

事業内容

・ミドルエイジ女性の転職・再就職の支援のためのカウンセリング・研修・人材コンサルティング、企業内女性社員のモチベーションアップセミナーなど、女性の活躍支援。

・新たな事業として、港湾にも女性の力を、と作業船運営を始める。
<http://www.frajouterie.com/>

未来に向かって舵を取る — SDGs と航海について思うこと —

ファイルティーチャー 代表 世古真一
CLICK 編集室 主幹 福田七衛
聞き手：CLICK 編集室 スタッフ 杉本なつみ

今号の特集は「煌く自分創り」のお手伝いをテーマにしている、株式会社 Frajouterie(フラジュテリー)代表取締役 橘田 佳音利様の御登場でした。いただいた原稿を基に、杉本が、レギュラー執筆陣であるファイルティーチャー代表世古氏と福田主幹を交えて対談しました。

杉本：今回の橘田様の寄稿は日本とパラオのヨットレースのダイナミックな体験記でありながらも、その中に、海洋プラスチックの調査として、海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全するというSDGsに関連している事柄があるのだということを教えて頂きました。ちなみに世古さんは「過去を耕し、今の思いを言葉にして、未来へ向かって舵を取る」ということを理念に、ファイルティーチャーというセルフカウンセリングシステムの開発のお仕事をされておられますが、「未来へ向かって舵を取る」ということと、橘田様のヨットでの航海の体験記と関連しているのではないかと感じたのですが、いかがでしょうか？

世古：SDGsは改めて人生や企業経営という「航海」なんだということを思い巡らすことができました。その意味では体を張った体験記で読んでいて楽しかったですね。

杉本：「人生」にも「企業経営」と「航海」の関係とはどういうことですか？

世古：それは、「SDGs」にも「航海」にも「人生」にも「企業経営」にも出発地点があり目的

地があるということです。橘田様の航海では横浜からパラオまで3197キロのプロセスを持続できなければヨットレースは成り立ちませんし、ゴールしていなければこの原稿はいただけなかったことでしょう。人生に例えると、生まれた時があって死ぬ時がある。企業経営では創業した時があり、廃業する時がある。という様に、始まりと終わりの時間が存在します。実際の航海では横浜出発、パラオのコロール島という目的地というものを常に意識していたと思います。そして、その始まりから終わりまでのプロセスに起こりうるすべてのことをあらかじめシミュレーションして問題解決の準備を整えてから航海に臨んでいたのではと推察します。ただ、「人生」と「企業経営」においては、ゴール地点は、目的地という場所ではないことが多いため、目的が定まらず、始まりと終わりの時間の間で彷徨い続けてしまい、結局、目的がわからずに、終わりの時を迎えてしまうという人や、企業があることも事実です。

杉本：なるほど、私の人生のゴール地点はどこかと聞かれても、今は答えられないかもしれません。どうしたら、ゴールは見つかるのですか？

世古：私がいつもしていることは、生まれた西暦年に100を足して、100歳になる時の西暦を常に意識してみることです。その時に大なることは100歳まで生きられるかどうかは問題にしないことです。自分が100歳を迎えた時

には、西暦何年で、どこに住んでいて、だれと一緒にいて、何をどうしているのか？を考えることにしています。そうすると、何のためにその時間と場所と人と物事と生きてきた方法や技術を選択してきたのかが見えてきます。つまり、冒頭に福田主幹がおっしゃっていた、「陰徳善事」の話に通じます「人知れず社会に貢献しても、分かる人には分かる」と考えあえて自らは発信しないことが多かったのですが、始まりと終わりを意識しながら、いつどこでだれと何をどうするのかを考えていき導き出されるものは「理念」だと思います。この理念こそ、「人生」と「企業経営」と「SDGs」を結びつけるものです。

杉本：「理念」という言葉はよく聞くのですが、雲をつかむ様な話で、正直よくわかっていないのですが、わかりやすく教えていただけますか？

世古：理念とは、「焼き鳥の串」のようなものだと思って考えてみてください。焼き鳥は肉やネギがひとくちで食べやすい大きさに切られて串に刺さっていますが、串は手で持つところだけは見えていますが、肉をつないでいる部分は隠れていてみません。人生の出来事も自らが選択してきたものは過去を俯瞰すれば繋がっています。しかし焼き鳥の串の様につないでいるものは見えません。つまり、連続してつなげているものをつないでいるものは何だろう？と考えて出てきた言葉が「理念」だと思っていただければいいと思います。

と、偉そうにお話をしてしまいましたが、実はこの話は30数年前に初めてお会いした福田主幹から飲みながら何度も聞いた話なのです。その焼き鳥の串の話が、現在はSDGsと名前を変えているだけの様な気がしています。福田主幹から理念は焼き鳥の串の話を聞いて、

似た様なものはないかと探したのですが、ろうそくの芯、数珠の紐なども理念を考える上で、役立てることができるのではないかと思います、この話はよくしています。

杉本：SDGsと理念の関係がよくわかりました。つまり、理念＝物事をつないでいる紐や糸の様なものであり、それが切れてしまったり、最初からなかったりしたとしたら、物事はバラバラになってしまうということなんですね。

福田：SDGsはとても大切な考え方だと思うのですが、横文字の言葉の表現に難しく囚われている経営者や社員の方が多いのを目の当たりにしてしまい、何とかわかりやすく伝えようとしてきたのですが、焼き鳥の串の話を思い出せてよかったです。冒頭、自分の家の薬箱の中にある薬のようにすぐに役に立つものという意味で、「自家菜籠中」を紹介したのですが、先人の言葉の中からも未来に繋げることを目指して、クリックを続けていきたいと思っています。

杉本：私もSDGsを難しく考えていましたが、「焼き鳥の串」の話は腑に落ちました。自分の人生理念の形成にもこの言葉を思い出していきたいと思います。今回もありがとうございました。

SEISHIN APPLICATION
CLICK

—— 適応と前進 ——

編集室ダイヤルイン 03(5751)3386

BEST 使うに簡単！使って感嘆！ **MCエッチ液**



時代が変わる、社会が変わる・・・ 備えなければ

株式会社 V-NET
代表 池松正克

歴史を振り返ると国家・国民が危機・恐怖を覚えた事件が数多くあった。

その代表的な事件を述べてみると、270 年続いた徳川幕府の大政奉還、そして廃藩置県が発せられ武家による国政が民に移管された事は国民の生活に大きな変化をもたらした。その後平民に苗字が許されたり、太陽暦が採用、明治政府が行った軍事力拡大のための徴兵令の実施、海軍兵学校設立、ロシアと千島と樺太の交換、内閣制発足、大日本国憲法の発令、皇室典範の発布、東京大学創立、日本銀行設立、小中学校令公布、教育勅語発効、日曜日を休日、土曜日を半休、日韓併合、日清戦争、日英同盟、日露戦争などなど多数の大変化、大改革近代国家そして軍事国家の道を進み始めたものだが国民の多くは、その変化、進化にはさぞ戸惑った事だろう。長い間鎖国、幕府武家政治体制から脱皮した時代からの大変化に国民達は大いに苦労、犠牲を払ったことだろう。

近代国家体制が進む中、産業界も革命的大変化そして新しい産業が次々と生まれ、礎を築いた明治の偉人達はその英知、努力には敬服する。その後も第一次世界大戦、国際連盟加盟、また国内においては関東大震災など内外の大事件、大変動を経て昭和の時代となった。

昭和初期は軍国主義が体制を握り、国際連盟の制止を振り切り太平洋戦争に突入、国民の意見など全く通じず耐乏生活、男子は残らず徴兵という命を国家に捧げる等過酷な生活を強いられ、370 万人もの人命を失い、国家存亡の危機に陥った。戦後の生活でも衣・食・住に乏しい時代が続いたが、

国民は数々の苦勞を凌ぎ米国占領下で一億国民の総決起力で奇跡と云われる回復を果たしたことは世界から驚異の的となった。

ジャパニアズナンバーワンの筆者エズラボーゲルはその著書の中で日本の成功の基は教育にあったと述べているが、それは徳川時代に起こった藩校から続いた日本に於ける学問のすゝめから継続しているものであろう。戦後の日本社会は価値観が全く変わり、社会構造も大きく変化する中、日本国民は辛抱強く耐乏、新しい社会、環境に順応していった。新しい民主国家としての政治体制の中で近代国家としての再建の道が始まった。民主国家の政治は国民の意を受け、安心・安定した国を進めなければならないのだが、国家の繁栄の裏側で政治家の慢心、弛みが出て来ているのは見逃せない事態だ。リーダーは先を見る戦略を持つ、哲学を持つなどの責任意識が必要だ。国民の命と生活を守ることが第一儀であり自らの権利とか延命、保身を考えるのであれば存在の価値はない。

人類、世界には想定外の大事件が起こる。今、地球規模で起こっているコロナ・ウイルスの蔓延は人類が危機に直面している。

各国はそれぞれが対策に追われ、我が国でも歴史的な大事件となっているが、リーダーである政治家がこの難局を打破することが出来るのだろうか。一刻の猶予も許されないのだが、平和に慣れた彼等の危機感が薄く遅い。国民が生活の困窮を感じ訴えていて、給付金が抛出されることになったが、手を挙げた人を対象とは、何という失言、自らの立場国民国家という認識が全くないのは驚くばかりだ。今日のコロナ事件で日本の政治、政治家が新たに変る時が訪れるのではないか、維新、敗戦という様な時の変りが起る気配が漂う。

コロナ騒動、事件の中で世界に目を向けた時、米・中の対立は眼に余る。今や一色即発の危険さえある。世界中の人々が危機に直面している今、国際

協力・団結でこの窮状を乗り切らなければならないのだが。

この事態を乗り切ったあとには今日とは違った社会・世界・秩序の時代、そして人々の新しい価値観が生まれることになるだろう。歴史的な幾多の事件、難関を乗り越えて来た人類に再び次の挑戦が待っている。

最後になったが印刷業界としても時代の変容をつぶさに見つめ、新たな戦略を構築し将来に備えていかねばならない。IT革命、デジタル革命の時に新しい技術を活用し、新しい業態を進められたことは敬服に値するが、近い将来、次の大きな波が印刷業にも押し寄せて来るだろう。

日本の産業界にも大きな変化が起こるだろう。既に全く異業種間の提携などが起っておりそれ等の

動向にも注意する必要がある。

将来戦略を構築し、新しい価値観の時代を予測し、幅広いマーケティングをベースに変化する時代、環境に対応、成長する業態に変容していく事が望まれる。

令和2年5月

(後記) 当拙文が掲出される頃にはコロナ感染が終息に近付いていることを切に願うものです。

■プロフィール

池松 正克(いけまつ まさよし)

1935年生まれ

1958年慶応義塾大学経済学部卒業

(株)電通入社 (株)電通取締役

(株)電通テック代表取締役社長、会長等を歴任

2006年 退任

現在

株式会社 V-NET 代表

2020年(令和2年)5月29日(金曜日)

宣言

宣言

宣言

宣言

◆ 5月の月例経済報告の主な内容

国内経済	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速な悪化が続いており、極めて厳しい状況にある	➡
個人消費	急速な減少が続いている	➡
設備投資	このところ弱含んでいる	↓
輸出	急速に減少している	↓
輸入	このところ下げ止まりつつある	↑
雇用情勢	弱さが増している	↓
世界経済	急速な悪化が続いており、極めて厳しい状況にある	➡
アメリカ	急速な悪化が続いており、極めて厳しい状況にある	➡

※ ↑は引き上げ、➡は据え置き、↓は引き下げ。4月との比較



マイナス幅が拡大した。「個人消費」や「生産」、「企業収益」も厳しい状況との判断を維持した。「輸入」は「感染症の影響は残るものの、このところ下げ止まりつつある」とし、17年12月以来、2年5か月ぶりに上方修正した。中国の経済活動の再開で物流機能が回復していると判断した。海外経済は「急速な悪化が続いており、極めて厳しい状況にある」とした。米国やユーロ圏は「極めて厳しい状況にある」との認識を維持した一方、新興国・地域で下方修正した。

政府の緊急事態宣言が解除され、経済活動が徐々に再開しているが、先行きは「当面、極めて厳しい状況が続くと見込まれる」とした。西村経済再生相は28日の記者会見で「(感染拡大の)第2波、第3波のリスクを認識しながら、慎重に見ていく必要がある」と説明した。

5月月例報告 景気「極めて厳しい」 「悪化」の判断維持

政府は28日公表した5月の月例経済報告で、国内景気の総括判断について、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で「急速な悪化が続いており、極めて厳しい状況にある」とした。リーマン・ショック時の2009年5月以来、10年11か月ぶりに「悪化」と表現した。4月時点(21%減)よりも

Customer Delight

—満足から感動へ—

印刷業向け統合経営支援ソフト
FileMakerテンプレート

印刷管太郎XI

パッケージ版 / ASP版

BEST

使うに簡単!使って感嘆!



LED-UV・オゾンレスUV用
LUV-10

ハイブリットUV用
KUV-20

プルーフ用

インクジェットプリンタメディア

PoleStar

IJP-RC-180 **IJP-RCN2-180**

IJP-GC-150 **IJP-GC-90**

IJP-GC-140 **IJP-GC-85**

IJP-MC-150

IJP-MC-140 **IJP-MC-85**

IJP-IP-170 **IJP-IP-130**

進化したデジタル検版ソフト

FLAP WORKS 2 登場!!

デジタル検版ソフトウェア

FLAP WORKS 2

フラップワークス

for Windows / macOS

Office データ変換システム

PDF Change Server

Officeデータ入稿に革命を!

AccurioPress
C3070



Full Color Production Printing System

KONICA MINOLTA

SEISHIN 誠伸商事株式会社 www.seishin.co.jp

■本社〒145-0062東京都大田区北千束2-9-10TEL.03-5751-3011

■静岡支店〒422-8034静岡県静岡市駿河区高松2-17-11TEL.054-340-1191 ■北関東営業所〒321-0104栃木県宇都宮市台新田1-6-9TEL.028-684-1981

■東北営業所〒983-0841宮城県仙台市宮城野区原町3-8-9TEL.022-299-6661 ■新潟営業所〒950-0853新潟県新潟市東区東明7-2-24TEL.025-286-9040